

行けば良さがわかる国、エルサルバドル

「また、エクアドル行くんだっけ？」

「いえ、エルサルバドルです。」

「エルサルバドルか！」

同僚との会話はいつもこのような感じである。もっとエルサルバドルのことを広めなければ、と常々思う。

私は、SATREPS (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)「シャーガス病制圧のための統合的研究開発」の共同研究で、シャーガス病の流行地の一つであるエルサルバドルに断続的に渡航している。シャーガス病は、クルーズトリパノソーマ(*Trypanosoma cruzi*)と呼ばれる寄生原虫によって引き起こされる病気で「顧みられない熱帯病」の一つである。感染後、急性期には発熱やリンパ節炎などを呈するが、その後無症候に経過し、十数年を経て約3割の慢性期患者に心疾患や消化管疾患が引き起こされる。エルサルバドルの主な慢性期症状は心疾患であり、治療薬であるニフルチモックスやベンズニダゾールが処方されるが、副作用が強いという問題点がある。そこで、本プロジェクトではシャーガス病形成に係る病原因子の探索と新しい治療薬の開発を軸にして、共同研究をおこなっている。私の任務は、現地研究者への実験手技の指導や新たな実験機材の設置などである。また、現地の研究者と一緒に、シャーガス病の媒介昆虫であるサシガメ採取や植物由来の治療薬候補を得るために植物採集に同行し、採取方法だけでなく、現地の生活の様子や文化も同時に学ぶことができている。



◁サシガメ採取に同行した際の写真。

サシガメは、昼間は物陰に隠れており、この時は寝具の下からサシガメが見つかった。現地の研究者から、サシガメの見つけ方のコツを教えてもらった。

私は青年海外協力隊や留学の経験が

なく、海外旅行は台湾とメキシコのみで、2週間以上滞在することになった初めての土地がエルサルバドルであった。当初は治安が悪いなど不安要素しかなかったが、時間が経つにつれ、だんだんと過ごしやすくなっていった。その1番の理由は、食事に困らなかったことだろう。国民食であるププサなどの現地の食事や魚介類を楽しむことができ(海がない県なので)、かつ世界的に知られているハンバーガー屋や中華料理などの店にアクセスしやすいサンサルバドルが、主な活動地であったのが救いであった。また、コーヒーの産地であるエルサルバドルには

カフェも多く、コーヒー好きにとっては天国である。そして、エルサルバドル人や現地で暮らしている日本人の方々にいろいろなお店に連れて行ってもらったのは大変ありがたかった。日々多くの方々に助けてもらい、楽しく滞在することができている。



△プブサ屋。サシガメ採取前に腹ごしらえをした。

△お気に入りのカフェの一つ



△火山が多く、自然も楽しめる



△現地の共同研究者

コロナ禍で止まっていた渡航も再開し、再びエルサルバドルに来ることができた。本プロジェクトも残り1年となり渡航回数も限られてくるが、任務を遂行しつつ、エルサルバドルの滞在を楽しみたいと思う。

鬼塚 陽子（おにつか ようこ）氏

群馬大学大学院 保健学研究科 助教。SATREPS プロジェクト(2018-2023)により、在外研究員として派遣され、教育省や国立エルサルバドル大学等の研究員たちと共同研究をおこなっている。